

福山民報

発行
福山民報社
福山市津之郷町
津之郷 970-1
Tel.084-952-2662
FAX084-952-2660



原水爆禁止世界大会ヒロシマデー集会 1500人

核なき世界をともに



広島に原爆が投下されてから78年となった8月6日、原水爆禁止2023年世界大会ヒロシマデー集会在広島市内で開かれました。集会には1500人(主催者発表)が参加しました。

核兵器の使用はいかなる状況でも断じて許されないと

して、国際社会がその脅威を根絶するためにただちに力を尽くすこと、核不拡散条約(NPT)第6条の核軍縮・撤廃義務のための交渉義務の履行とともに、いままでの再検討会議の合意を実行すること、NPTに参加するすべての国が核兵器禁止条約を支持し、参加することの3点を訴える決議「広島からすべての国の政府への手紙」が採択されました。

特別キャンペーン「被ばく者の声を世界に」では、広島に原爆が投下された「黒い雨」被害者、米国の核実験で被災したマーシャル諸島・ロンゲラツプ島民の代表が被ばくの実相を訴えました。

被爆者のサーロー節子さんは、「核の被害者たちが掲げてきた非核による平和というトーチを受け継ぎ、これまでになく高く掲げてくれる、より若く、より強い手が必要です。広島・長崎、原水爆禁止世界大会から高く掲げて欲しい。」と訴えました。



左から、三好市議、塩沢、清原、河村県議

福山市原水協の代表団として、河村ひろ子県議、高木たけし、みよし剛史両市議、清原だいき介護・医療対策委員長、塩沢みつえ女性・福祉対策委員長が世界大会に参加し、平和公園や本川小学校平和資料館などのフィールドワークも行いました。

日本共産党 犠牲者を追悼



左から、仁比、井上、宮本、志位、岩淵、笠井の各氏

草の根運動広げよう

日本共産党議員団は、8月5日に原爆養護ホーム、県被団協を訪問し、6日には広島市の平和記念公園の原爆碑で犠牲者を追悼し、平和祈念式典に参列しました。志位和夫委員長、笠井亮、宮本徹両衆議院議員、仁比聡平、井上哲士、笠井亮、岩淵友の各参議院議員、大平よしのが元衆議院議員、河村ひろ子県議らが参加しました。また、日本共産党議員団は同日の原水爆禁止世界大会にも参加しました。志位氏も連帯の挨拶で「核兵器禁止条約がその機能を発揮しはじめている。日本は、まずは核兵器の被害者支援の国際協力の輪に入るべき」と指摘し、核禁条約に背を向ける岸田首相を批判。「草の根からの運動で日本を、世界を変えよう」と呼びかけました。

大平よしののぶ 奮戦レポート

中国ブロック 比例予定候補

広島原爆の日の今日は原爆碑への献花、平和記念式典、ヒロシマデー集会、原爆病院への慰問・懇談など。

核抑止力論からの脱却を求める声はもはやオール広島としての世論。核兵器禁止条約への参加も。なぜならヒロシマは誰よりも核兵器が使用されたときの壊滅的な結末を知っているから。

岸田首相はこの声にも向き合わないというなら、もはやヒロシマを語る資格も広島に足を踏み入れる資格もなし。退陣、転換、一択。

「ヒロシマの心」を届けるオール広島議席の奪還、必ず。

同時に、私たちとしては「平和宣言」や県知事あいさつへの少なからずの不満も。「究極目標?」「平和文化?」「核兵器禁止条約は?」「黒い雨は?」——引き続き世論と運動、議会論戦で追及、突破を!



(記事・写真は「大平よしののぶ」Facebook投稿から転載)